

第28期新潟市社会教育委員会議

実施年月日	第2回 平成20年9月1日(月)実施																																																		
会 場	市役所本館 第2委員会室	傍聴人	3人																																																
会 議 内 容	<p>1 生涯学習に関する訪問調査報告 訪問調査の概要について</p> <table border="0"> <tr> <td>北 区</td> <td>南委員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東 区</td> <td>伊井委員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中央区</td> <td>五十嵐委員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>江南区</td> <td>笠原委員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>秋葉区</td> <td>”</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>南 区</td> <td>長谷川委員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>西 区</td> <td>福島委員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>西蒲区</td> <td>真島委員</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>2 「生涯学習に関する市民意識調査」分析結果について 調査結果の概要について 生涯学習活動への関わり及び人との関わりについて 中村委員 社会的活動への関わりについて 内田委員</p> <p>3 指定都市社会教育委員連絡協議会参加報告</p> <p>4 (仮称)「新潟市子どもの読書活動推進計画」について</p>			北 区	南委員			東 区	伊井委員			中央区	五十嵐委員			江南区	笠原委員			秋葉区	”			南 区	長谷川委員			西 区	福島委員			西蒲区	真島委員																		
北 区	南委員																																																		
東 区	伊井委員																																																		
中央区	五十嵐委員																																																		
江南区	笠原委員																																																		
秋葉区	”																																																		
南 区	長谷川委員																																																		
西 区	福島委員																																																		
西蒲区	真島委員																																																		
出 席 者	<table border="0"> <tr> <td>【社会教育委員】</td> <td>【事務局】</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>伊井 昭夫</td> <td>中村 恵子</td> <td>長谷川教育次長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>五十嵐吉春</td> <td>長谷川央子</td> <td>田中教育次長</td> <td>玉木生涯学習課長</td> </tr> <tr> <td>内田 健</td> <td>福島 實</td> <td>手島教育政策監</td> <td>加藤生涯学習課長補佐</td> </tr> <tr> <td>笠原 孝子</td> <td>真島 一</td> <td>八木中央図書館長</td> <td>鈴木係長</td> </tr> <tr> <td>齋藤 勉</td> <td>南 加乃子</td> <td>近藤中央公民館長</td> <td>江花</td> </tr> <tr> <td>新藤 幸生</td> <td></td> <td>梅津地域と学校ふれあい推進課長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【公民館長】</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>土田豊栄地区公民館長</td> <td></td> <td>平田中地区公民館長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乙川亀田地区公民館長</td> <td></td> <td>杉本小須戸地区公民館長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>船越白根地区公民館長</td> <td></td> <td>上西坂井輪地区公民館長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>山上巻地区公民館長</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			【社会教育委員】	【事務局】			伊井 昭夫	中村 恵子	長谷川教育次長		五十嵐吉春	長谷川央子	田中教育次長	玉木生涯学習課長	内田 健	福島 實	手島教育政策監	加藤生涯学習課長補佐	笠原 孝子	真島 一	八木中央図書館長	鈴木係長	齋藤 勉	南 加乃子	近藤中央公民館長	江花	新藤 幸生		梅津地域と学校ふれあい推進課長		【公民館長】				土田豊栄地区公民館長		平田中地区公民館長		乙川亀田地区公民館長		杉本小須戸地区公民館長		船越白根地区公民館長		上西坂井輪地区公民館長		山上巻地区公民館長			
【社会教育委員】	【事務局】																																																		
伊井 昭夫	中村 恵子	長谷川教育次長																																																	
五十嵐吉春	長谷川央子	田中教育次長	玉木生涯学習課長																																																
内田 健	福島 實	手島教育政策監	加藤生涯学習課長補佐																																																
笠原 孝子	真島 一	八木中央図書館長	鈴木係長																																																
齋藤 勉	南 加乃子	近藤中央公民館長	江花																																																
新藤 幸生		梅津地域と学校ふれあい推進課長																																																	
【公民館長】																																																			
土田豊栄地区公民館長		平田中地区公民館長																																																	
乙川亀田地区公民館長		杉本小須戸地区公民館長																																																	
船越白根地区公民館長		上西坂井輪地区公民館長																																																	
山上巻地区公民館長																																																			
会 議 録	<p>(司 会)</p> <p>定刻には若干まだ早いのですが、委員の皆さんお揃いですので、ただいまより第28期社会教育委員会議(第2回)を開催させていただきます。開会に先立ちまして、長谷川教育次長から一言、ご挨拶をさせていただきます。</p> <p>(長谷川教育次長)</p> <p>皆さん、こんにちは。今日は本当にお暑い中、また、お忙しいところをお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。委員の皆様には、去る5月19日に第1回目の会合を開かせていただいた後、第3期の生涯学習推進基本計画の策定に向けまして、各地区の基幹公民館にお出向きいただき、それぞれの地区の現状と課題について調査をしていただきました。今日は、委員の皆様からその調査報告と、もう一点は、生涯学習に関する市民意識調査ということで、アンケート調査を実施いたしました。その結果の分析報告、この2点が主な議題となっております。少し時間が長くなるかもしれませんが、最後までご協議のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>																																																		

(司会)

資料確認

ここから議長の方に進行をよろしくお願いいたします。

(齋藤議長)

それでは、「3. 報告事項」(1)生涯学習に関する訪問調査報告に入りたいと思います。先ほどの次長さんのお話のとおり、皆さんから、基幹公民館に訪問調査に行っていただき、報告をまとめていただきました。事務局からは10分程度で発表してほしいとの依頼があったようですが、8つの発表を聞くとものすごく長い時間になり、80分の勉強はちょっと大変だなと思いますので、5分をめどに少し縮めていただきたいと思います。突然のお願いなので10分でもいいですが、可能でしたら5分くらいにさせていただくと助かります。

全部で8区ありますので、江南区の発表で一区切りして、質疑応答を行い、引き続き、秋葉区から順に発表したいと思います。8区全部聞いた後だと分からなくなってしまうと思いますので、そのような進行にさせていただきたいと思います。

それでは、概要説明を、課長からお願いします。

(事務局：生涯学習課長)

概要説明をさせていただきます。

委員の皆さまから、6月2日の西蒲区から7月10日の東区まで、約1か月間にわたり、8区の基幹公民館を訪問していただきました。1か月間の強行軍で回っていただきましたことにつきまして、委員の皆様へ御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

また、各会とも、出席者として公民館の運営審議会の委員、活動協力員、地域教育コーディネーターの皆様からお集まりいただきました。本日、その労を執っていただきました基幹公民館の館長からも来ていただいておりますが、出席の皆様方を含めまして、改めて御礼を申し上げたいと思います。

訪問調査では、それぞれの会場ごとに3名の委員で分担していただき、調査事項を主に3点に絞って調査をいたしました。

1点目は、「住民の学びの実態と今後」という調査事項です。その内容は各区の特色ある事業の内容、それから、グループ・サークルの活動状況です。

2点目は、「社会貢献活動への取組みの状況」についてどうであるかということ、そして、3点目は、「生涯学習計画への要望または意見」について、この3点につきまして、各委員の方々からまとめていただきました。概要については以上でございます。

(齋藤議長)

ありがとうございます。では、早速、報告に入りたいと思います。北区、南委員からお願いします。

(南委員)

それでは、北区のご説明をいたします。5分ということなので、なるべくかいつまんで申し上げます。北地区公民館と豊栄地区公民館、大きく分けて二つの公民館のお話を伺ってまいりました。

北地区公民館では、高校生以上の一般公募による企画立案などの「濁川コミュニティART」とか「New リーダー養成講座」、また「阿賀野川ござれや花火」という、地元の人たちが一つ一つお金を出し合って花火を上げていますが、これをさらに観光的に目玉にするにはどうしたらいいか、それから、東港付近の安全防犯のために、外国人との国際交流のためにどんなことができるかということで始まった「ロシア語初級会話」講座が開かれているというようなお話がありました。

一方、豊栄地区公民館では、「地域づくり講座」が各地域で盛んに行われております。それぞれの地域に合ったものを展開されているようです。ここで、特に豊栄地区公民館では、成人式や大民謡流し、文化祭、お茶会など、それまで豊栄市の時にありました文化的なイベントに、全部公民館の職員がかかわっているということ、膨大なイベントを全部扱っているというお話がありました。このあたりが、お話の中でそれぞれの地域の特性に合ったイベントが行われていることは分かったの

ですが、旧豊栄市のものをそのまま持ち越しているということで、活動に若干無理があるのではないかと感じました。

それから、調査報告の「住民の学びの実態と今後の方向」で、グループ・サークル活動について、サークル活動そのものについての意見はあまりなかったのですが、サークル同士の交流のために何かできないかというようなこと、あるいはそれぞれの橋渡しになるような場所が必要なのではないかとというようなお話がありました。

続きまして、「住民の学びの実態と今後の方向」では、施設利用のことです。これについては、地域的に温度差があると、つまり交通手段が非常に問題で、足がないために参加できないというような場所が問題であるということをいろいろな方から伺いました。また、子どもと老人のふれあいのセンターがほしいとか、利用の仕方について、例えばコミュニティセンターとして使う場合と、公民館として使う場合で使用料が違うことがあり、この矛盾についてはどうなのかというようなお話もありました。伊井委員も言っているらしいんですけども、公民館の立地や交通機関がしっかりしているかどうかということが、非常に問題となる部分ではないかということで、私もそう思いました。

また、移動図書館ということで、ブックバスというものがこれまであったそうなのですが、それが中止になったということで、利用している方が非常に楽しみにしていたということも伺いましたし、まして交通機関の問題があるような場所であれば、なおさらのこと、こういう移動図書館的なものはあった方がいいのではないかと思います。

「社会活動への取り組み」ですが、教育コーディネーターの意見として、学校側の理解があって、受け入れがうまくいっているところのお話などを伺いました。学校側から地域に対してアクションを起こしているような場合には、非常にうまくいくということですが、教育コーディネーターは昨年度から始まったわけですが、非常に重要な役割を果たしているという印象があります。特に小学校にかかわりがある人以外の方々にも、地域の皆さんに地域コーディネーターをPRして、周知徹底しながら、もう少し活動がしやすい環境にしてあげるようなことも必要ではないかと思いました。

続きまして、「計画に対する要望事項」です。これは、予算の削減が大きいということで、それぞれ活動している方が不安に思っているような、いくつかのお話としてありました。

また、公民館の職員が3～4年で交代するようなことがあって、この公民館にはこの人というような顔がほしいというお話がありました。

これからますます予算が厳しくなるということで、公民館全体を地域で運営するぐらいの意気込みで、人材発掘やボランティア養成が急務ではないかという伊井委員からのご意見があり、私も同感です。

全体を通して新潟の中心部と違う問題点としては、交通手段の問題と、高齢者と子どもたちを結びつける場の設定、それからサークル活動とか、そういう方々の横の連携がうまくいくようなPR活動などが必要ではないかと思いました。以上です。

(齋藤議長)

ご協力、ありがとうございました。それでは、続きまして東区・伊井委員、お願いします。

(伊井委員)

5分ということで、「私の意見」を主体にお話ししたいと思います。

先ず最初に、「住民の学びの実態と今後の方向」の中で、学習内容・特色ある事業については、皆さん方から頂いた資料をそのまま転記し、私の考えを少し入れました。中地区では「ボランティア養成講座」であるとか、「親子わくわくランド」あるいは「この指とまれ！」の人材発掘というものが、区の特色ではなかったかと思えます。

石山地区公民館は、「子育てふれあいランド」「公民館へ行ってみよう! Day」「親子自然体験」の話しが主体でした。実は、私は「公民館へ行ってみよう! Day」に参加しました。素晴らしい企画です。これは推薦ものです。石山地区公民館の職員は、人材を掘り起こして、その人材をうまく利用しているところが特徴ではないかと思えます。公民館の職員が積極的なところは、全てに於

いて全ての皆さん方が積極的に活動する傾向があると感じました。

次に「グループ・サークル活動」では、謝礼の話がたくさん出てきたと思います。また、参加人数が減ってきていること、公民館に集まって来る人が固定化しているということ、そして高齢化していることが問題になっています。この対策として、新しいサークルを積極的に育て、人が集まりやすくなるような工夫をしています。このような「積極性」が2番目に特記する事項ではないかなと思います。

それから、3番目の「施設の利用」ですが、私は少し分からないところがありました。「シルバーピア」を利用の方が自由で公民館より使いやすいという意見、その他の要望として、美術館がないとか、駐車場が狭いというような話もありました。東区は場所が広いわけで、そこに大きい公民館二つと、小さい公民館があるわけで、公民館の設置場所が、また北区と同様交通機関がいいところが人を集める大きな要素になっているのではないかなと思いました。

それからもう一つ、コミュニティと公民館をどういうふうに関係づけていくかということが、大きな課題になってくるであろうと思います。みんなが使いやすいことが一番で、そうすれば人が集まってくると思います。コミュニティも大事ですが、公民館をキーに動いていくのがいいかなと、これは今後の課題だろうと思います。

4番目の「教育コーディネーターの意見」、これもいろいろありました。要は、学校の先生の態度が悪いという意見が大分ありました。本当かなという気がしました。実は私も今までは先生といえば悪者の代名詞みたいに見ていましたが、最近はいいのではないかと考えが変わりました。一方、コーディネーターは非常によくやっているのではないかなと思います。特に世代間交流のキーになっているという感じがしました。この地区の参加者は、辛口の意見が多かったように感じます。

5番目の「計画に対する要望事項」では、ボランティアとはいえ、ペットボトル1本でもいいからお金がほしい、要するに予算をもう少し出してほしいということ。また、ペットボトル1本でも出せるような権限がほしいという意見もあったと思います。これからお金がないわけですから、最小のお金を最大限使う方法を公民館毎に考えていくより仕様がよいのではないかなと思います。

最後に6番目の「その他」、訪問調査の出席者全体では、64パーセントが男性ですが、東区は男性が4人、女性が8人だったと思いますから、圧倒的に女性が多かったわけですね。意見も辛口な意見が非常に多かったと思います。しかし、非常に活発だし、公民館の職員がよき人材を集め・うまくこの人達を活用していると思いました。

(齋藤議長)

ありがとうございました。それでは三つ目、中央区・五十嵐委員さん、お願いします。

(五十嵐委員)

関屋地区公民館、鳥屋野地区公民館、中央公民館です。一つ目の特色ある事業の目玉となるものは、大変ユニークなものがあるなど、感心してまいりました。内容は、報告書に記載のとおりですので特に説明いたしません。

グループ・サークル活動についてですが、苦慮していることや工夫等の話の中で、以前からの積み重ねでいろいろ苦労されているということがよく分かりました。相手の立場を理解し合ったり、一緒にやっっていこうという基本的な考え方に立ったり、新しい人がなかなか入りにくい状態なので、関屋地区のモーニングサロンではとにかくサロン風にやっっていこうではないかという、苦労がよく分かりました。

住民の学びの実態のなかの施設利用では、特に大きな話題はございませんでした。

問題は、次の学校とのパイプ役としての地域教育コーディネーターが感じていることや困っていることで、この辺を実際の教育コーディネーターからお話しをしていただきました。例えば、万代長嶺小学校のコーディネーターの方は、公民館から講師の方を手配して、喜んで来てくれるが、なかなかまだうまくいっていない、現在も調整して手配しているところであると、今後とも授業のための支援を行いたいというお話でした。

それから、女池小学校の地域教育コーディネーターの方も、いろいろ具体的な取り組みをしてい

第28期新潟市社会教育委員会議

るが、今後地域に住んでいる外国の方から外国語の学習などもできないかどうか、学校の先生方の希望も聞いてみるということ。先ほど学校の先生は大変悪いという話もありましたが、忙しい中で教育コーディネーターが意見をとりまとめたり、公民館との連絡を取り合っているという苦勞の一端がよく分かりました。部活動の面での支援を得ているところはありますが、人材登録ではデータがまだまだ不十分だということも見受けられました。どちらにせよ、地域教育コーディネーターの苦勞がよく分かりました。ただ、ほんのいくつかの学校でございましたので、全体になると違って来るかなと思います。

これから地域が学校とどうかかわっていくのか、学校が自分たちだけの敷居の中でおさまっていて、外に出てこないのではないかと話も出ており、地域の協力を求めていった方がいいのではないかとということでした。

最後になりますが、今後10年間、推進計画を進めていく中で、どのようなものを取り入れていきたいかという話が一番重要かと思い、お聞きしたなかでは、やっぱり楽しい企画で、高齢者の生き甲斐となるようなものを何とか取り入れていく必要があるのではないかと、私もそう思いました。

それから、相談の窓口やルートなどが明確に示されていない場合があるので、その辺を今後工夫していく必要があるのではないかと思います。

また、どうしても有料化の方向に話が向いていきますが、無料化で何とか抑えていてもらいたいという意見、また、各地域にはコミュニティ協議会がありますが、今後はその協議会との連携が大切になっていくのではないかとと思われることです。特に中学校校区単位で健全育成協議会との参加対応が曖昧というか、見えていないというところがあるので、今後その辺の整理も必要ではないかということです。

具体的な例の中で長岡市では、生涯学習の相談窓口を設置しているが、新潟市でも市民が気軽に相談できる窓口があってもいいのではないかという意見がありました。

最後に、社会教育委員から、地域の若いお母さんや素人が気軽に参加できる、情報が得られる、そういう仕組みが今後とても大事だという意見がありました。以上、簡単ですが、報告をいたします。

(齋藤議長)

ありがとうございます。それでは、江南区・笠原委員さん、お願いします。

(笠原委員)

江南区ですが、1番、2番、書いてあるところは省略させていただきます。グループ・サークル活動の中で、「七味の会」についての発表がありました。これは世代間交流や、給食ボランティアをやっているという話で、この発表がかなりたくさんありましたので、この会について少し説明を加えたいと思います。

この「七味の会」は、公民館事業の中から生まれたグループではありません。社会福祉協議会の在宅福祉モデル事業として誕生したグループです。ですが、それは二十数年も前の話で、長い間には公民館の主催事業や、健康福祉課との共催事業である高齢者大学、シニア料理教室などと交流していくうちに、「七味の会」の人たちも公民館に協力し、また、公民館で育った人も「七味の会」のメンバーになるなど、とてもいい関係ができていたと思います。ここでは、公民館が自分の事業をしてやるだけでなく、このように場を提供することによって、地域活動の核になりうるという一つの例だと思って聞いておりました。

また、亀田も横越も、2年後に公民館の移転問題を持っておりまして、これが大変大きな問題になっており、たくさん話題が出ました。私も中央公民館の移転にかかわっており、建物が動くということは、利便性の問題でいろいろな不都合が生じてくると思います。この先いろいろな話が出ると思いますが、丁寧な話し合いを行い、公民館との信頼関係が損なわれるようなことがないように、気をつけていただきたいと感じました。

それともう一つ、皆さんから話題がたくさん出たのが、公民館の学びが、社会貢献活動として外へ出ていけない状況にあるという意見です。特に学校が絡んでくると、さらに参加者が少ない

という意見がありました。コーディネーターからも、はじめは引き受けてもらったのに、学校と言った途端に、それならやめるという話もあったという話が出ました。これは、学校側にも問題があるという意見が複数ありました。敷居が高いとか、先生方の中にも温度差があり、理解不足の点があるという意見がありました。

これは、その次の計画に対する要望事項にもつながっていきますが、地域の人たちは、通学路の安全確保等のセーフティ・スタッフとして協力しているのに、学校からはあまり協力が無いという厳しい意見がありました。学校にただ協力してくれと言っても、なかなか協力が進まない状況にあるので、ある程度、夏休みの間、何日間は学校に来てほしいとか、強制的なことを言ってほしい、それを計画に盛り込めないかという意見もありましたので、一応、報告書にも書いておきました。受け入れるだけではなくて学校の先生方にも地域に出てきてほしいという意見が、複数回答で出てきました。

また、コーディネーターから、なかなか人が集まらないので、公民館にもチラシ作成等の講座をやって、人集めの工夫に協力してほしいという話がありました。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございます。四つの区について、発表していただきました。そこで一応の一区切りとして、ここまでの発表の中で、ここをもう少し聞いてみたいとか、自分の調査に行った区とここが違うなどがあると思いますので、質疑応答の時間を取りたいと思います。質問、ご意見がございませうか。それでは、笠原委員さん。

(笠原委員)

質問ではありませんけれども、補足させてください。中央区の名簿について、備考欄に、公民館の運営審議委員あるいは協力委員である場合は、その旨記載してほしいという注意書きがありますが、その記載がありませんので、メモしていただきたいと思います。1番の松本さん、3番の南波さん、9番の谷田さん、13番の宮崎さん、この4人の方は運営審議委員です。

(齋藤議長)

ありがとうございます。ご発表について質問や意見などがございましたら、お願いします。

(新藤委員)

先ほど中央区の報告で、私、青少年の育成協議会の仕事もしております、中学校区ごとの育成協議会との連携で、ちょっと不協和音があるというお話をいただいたので、地域によってかなり活動が違うのか、いま合併している状態ですので、具体的にもう少しお話しいただければ、ありがたいと思います。

(齋藤議長)

中央区ですね。では、五十嵐委員さん、質問の意味は分かりましたか。

(五十嵐委員)

中学校単位での育成協議会の参加対応ということですね。

(新藤委員)

はい。

(五十嵐委員)

これは、細かい、深い話はなかったのですが、いわゆる健全育成協議会での動きについて、中学校側の職員など、そういう人たちの出方も悪いし、地域との連携がうまくなされていないのではないかと、その程度の話だったのです。私はそうとらえたのですが、齋藤議長もおられました、長谷川委員さん、いかがですか。

(長谷川委員)

詳しい話ではなくて、どちらかと言うと、つなぎ目をしっかりと設けてほしいといった意向のお話だったかと思います。具体的にどこかで不協和音があってどうこうというのではなく、もっと入りやすいつなぎ目を作ってくださいといった感じでした。

(齋藤議長)

何かご意見がおありですか。

(新藤委員)

今回、合併して育成協議会自体の活動が地域によってまるで違っていたのが、いま同じ方向に統一しつつあるものですから、地域性がかなりあるのだなというのは私も感じていましたが、具体的にどの程度なのか、もう一つ、旧新潟市内の区の編成のところ、小学校と中学校で区が違うという地域があるのでしょうか。中学生になると小学生のときの隣の区の管轄になってしまい、そこで活動が途切れてしまうという地域が実際にあったらしく、その辺で、小学校から中学校へのバトンタッチがうまくいっていないのかなという心配がちょっとあったものですから。ありがとうございました。

(事務局)

この時の発言について補足説明をさせていただきますが、中学校区単位には育成協があり、小学校区の単位になるとコミ協があって、コミ協の中に同じような組織があると、そうすると、同じようなどちらの組織に出ているのか、そういう整理が必要なのではないですかというような趣旨の発言だったと思います。

(齋藤議長)

ありがとうございます。他に。

(福島委員)

事務局にお伺いするような形になるかと思いますが、北区の1ページの最後に「注」という形で、豊栄地区公民館がお祭り等の仕事をやっているということでもあります。新潟市で例えば新潟祭りをやる時に、中央公民館あるいは生涯学習課が主管してやっているわけではないだろうと思います。これが新しく合併したところでは、それぞれの地区に残っている祭りや、大事な行事を行う場合、公民館がそれを全部賄っているという状況があるとしたら、私はそれはかわいそうというか、大変なことだろうと思っておりますが、他にもこのような状況があるのかどうか、教えていただきたいと思いました。

(齋藤議長)

では、八つの区になりますが、豊栄地区公民館のように、たくさん仕事をしている基幹公民館があったのかどうか、お気づきの方はありますか。おられなければ、事務局、お願いします。

(事務局：生涯学習課長)

合併して新市と旧市の間では、ご指摘のとおり事情が少し異なっており、旧市はご指摘の通り祭りや、様々な地域の行事を一手に引き受けている公民館は、そう多くはございません。事業も地域連携型はあったとしても、公民館が全部引き受けて行うことはないだろうと推測できます。

ただし、新市の中では、旧市町村の時代に運動会、お祭りといったものを公民館職員が引き受けて、中心となって企画し、実施してきたという経緯があります。その流れは、今もおそらく続いているところが何箇所かあります。今、お話にありました豊栄地区の場合ですと、豊栄には生涯学習課、社会教育課があり、生涯学習課、社会教育課、そして公民館が、それぞれの役割分担をして地域の活動をしてまいりました。それが合併後、公民館だけの業務になり、公民館が一手に生涯学習課、社会教育課の業務もあわせて受け持つというような状況が、現在、生じています。

つまり、それが市展であったり、豊栄文学でしょうか、祭りだとか、そういったものが、今、行われているという姿でございます。他のところにつきましては、区との連携により、例えば区の政策企画課と公民館が協働してやっていくというような形になってきていると思っております。

ただ、この話につきましては、各基幹公民館館長さんに今日来ていただいておりますので、うちはこうだというのがありましたら、館長さんから言っていただければ、ありがたいと思います。

(齋藤議長)

ありがとうございます。課長さんも、豊栄地区公民館のことしか分からないようですので、うちの公民館もたくさん仕事を引き受けていっぱいやっているよというところがありましたら、具体的に名前を出してもらいたいのですが、ございますか。館名もお願いします。

(山上巻地区公民館長)

巻地区公民館長の山上でございます。巻地区公民館では、昔から公民館が巻の祭りの一部、神社のイベントにかかわってきた経緯がございます。私も昨年まいりまして、なぜ公民館の職員が祭りにかかわるのかと聞きましたら、昔、青年団活動が活発な頃、公民館や青年団が窓口になっていたということです。青年団がこのイベントを計画していたのですが、青年団の活動がどんどんなくなって、そのまま祭りの仕事だけが公民館の仕事というような形で残り、今現在に至っているということです。まちづくり協議会が今は祭りの主催をしておりますが、最近になり、公民館はコミ協との連携をなさいよということもありますので、最初は私もおかしいなと思ったのですが、今は祭りのイベントに公民館として参加するのは、特に問題はないのではないかとこのぐらいの気持ちに変化をしてきております。

(齋藤議長)

ありがとうございました。

(福島委員)

補足を一つ、よろしいですか。

(齋藤議長)

先生も巻の方でしたね、よろしくお願いします。

(福島委員)

ちょうど合併によって町の主催がなくなってしまいまして、それをうまくまちづくり協議会に移してやってきているのが、巻地区だと思っています。今、館長さんがおっしゃったことを外部の人間が見ると、主催がまちづくり協議会に移ったということが、よく見えているというようなことであります。

(齋藤議長)

豊栄地区公民館と巻地区公民館の他に、まだありますか。はい、お願いします。

(船越白根地区公民館長)

白根地区公民館ですが、白根地区公民館は直接そういうものはありませんが、南区の味方地区、月潟地区、それから白根地区の10の分館では、祭りは、実行委員会という形でコミ協と組みながらやっていますが、その中身の大方の仕事を公民館職員がやっているというような状況があります。

(齋藤議長)

ありがとうございました。祭りは大事な問題ですけれども、どこが音頭を取って一生懸命やっているかということで、取り扱いを間違えると、その地区は滅んでしまうという問題もあります。ありがとうございました。旧市でないところにそういうのがあると、委員の方も押えておいてください。福島委員さん、これは豊栄地区みたいなやり方、おかしいよという意味が入っていたのですか。

(福島委員)

今ほど話が出てたように、コミュニティ協議会とうまく話をしていきながら、地域の人たちがたくさんかかわってくるような形でやっていくのがいいだろうというような意見であります。

(齋藤議長)

ありがとうございます。では、私から一つ。建物の新築移転とかというのが出ていましたね。

(笠原委員)

江南です。亀田と横越です。

(齋藤議長)

これは笠原委員さんの発表のところですか。それはいつ頃ですか。

(笠原委員)

2年後と聞きました。

(齋藤議長)

それは合併の建設計画に入っているものなのですか。

(笠原委員)

そこまでは分かりません。伺ったのは、2年後に移転だという話だけです。

(齋藤議長)

移転先も決まっている。そうすると、よく話し合っほしいと笠原委員さんは思いますか。

(笠原委員)

横越の場合は近いのですが、亀田の場合は距離的に離れますので、足の便が悪いとか、分館を残してくれとか、一部は残せないとか、バスを出してもらいたいとか、いろいろ意見が出てくるのですが、全部聞き入れるわけには当然いかなと思います。その話し合いをしていく中で、中央公民館でもありましたが、公民館に対する不信のようなものが出てきたら困りますので、情報交換を丁寧に行っていただき、信頼を損ねないような配慮をしていただきたいと思います。

(齋藤議長)

それで、公民館利用者の話し合いとか協議というのは、きちんとシステム化されて動いているのですか。

(笠原委員)

まだそこまでいっていないようです。

(齋藤議長)

とにかく火種がだいぶ出てきたという、そういう報告ですね。

(笠原委員)

まだはっきり聞かないうちに、こうでないとか、ああでないかという話が利用者の中にあるのだと思うのです。そうした風評も含めての不安があるのです。例えば横越ですと、地域公民館というのがあるということですが、新しく公民館ができることによってそういう古い施設が、古い公民館の体質が、九つあって機能しているということなのですが、廃止されるというのは困るという、そういう話でした。

(齋藤議長)

分かりました。だいぶ不満が表に出てきていると、そういうことですね。では、課長さん。

(事務局：生涯学習課長)

確かに江南区には亀田地区公民館、横越地区公民館の二つの計画が合併建設計画で予定されています。この両公民館につきましては、建設の中身等について建設検討委員会を設置しまして、地元の方、それから公民館の運営審議会の方、地元の利用者、設計を担当される方、そういう方たちに入っていただいて、どのような形にすればいいのだろうということ、横越地区公民館については既に実施設計段階、亀田は、基本設計段階に入ろうとしております。

確かに地元の方たちからいろいろご意見をいただきましたが、対立する意見等もあるわけですが、委員会の中でいろいろお話し合いをしていただき、いい方向にまとめていくという経緯をたどっております。

笠原委員がおっしゃった横越地区の公民館につきましては、今はコミュニティの施設として運用されており、横越に新しい公民館ができた形としても、それ以降の形も、形態は変わっていかないだろうと思っています。亀田については、確かに場所が今の亀田の体育館の方に移転しますので、不便にはなろうという声も聞いておりますが、駐車場も広くなりますので、非常に便利なものになっていくのではないかとこのふうにお話をしているところです。

(齋藤議長)

ありがとうございました。笠原委員さん、それでだいたい整合性が取れていますか、取れていないみたいですね。分かりました。合併建設計画の中に入っているもので、続いているものばかりですね。さっきの豊栄の場合のように、遠くなると高齢者が今度には行かれないとかいうのが結構出ていましたから、交通問題が亀田の場合は出てくるということですね。分かりました。ありがとうございました。

では、10分休憩を入れて、後半の方の報告に入ります。

【休 憩】

(齋藤議長)

それでは、お揃いのようなので、引き続き、進みます。それでは、秋葉区の笠原委員さん、お願いします。

(笠原委員)

秋葉について発表いたします。秋葉の学びについてですが、「にいつ丘陵」と呼ばれる里山を地域資源としてという話がありました。これにつきましては、公民館月報に里山再生推進支援ということで特集記事が載っております。これに関心がありましたら、私の方でコピーをお取りしますので、後でお申し出ください。

この地区で大変特徴的なのが情報提供の部分で、他の地域よりもうんと優れていると感じました。一つは、FM放送があるということです。これはよそでも、例えば新潟の場合ですと、FM新潟・FMセントがあります。西蒲区におきましては、FM角田山というのがあります。みんなコミュニティ放送局のことなのですが、新津の場合は月曜日から金曜日まで一定時間、1時間を行政の時間として確保してあります。ですから、大変使い勝手のいいものだろうと感じました。しかも、そのFM局が公民館の建物と同じ建物にあるということで、とても恵まれていると感じました。

それともう一つ、情報提供という部分で、新津の小須戸地区の館報を全戸配布しておりました。これが現物です。これが秋葉の館報です。これが小須戸の館報です。特に小須戸は毎月1回発行しておりまして、それが641号に及ぶということで、これは大変珍しいことだと思っておりますし、この館報が地域の話題提供になっているという話がありました。この館報につきましても、事務局に出しておきますので、後でご覧になりたい方は事務局でこの館報をもらってください。

それから、出席者の名簿を見ていただくと分かりますが、訪問調査の際に、1名を除いて公民館の運審ですとか、協力員、職員の方でした。それで、敢えて新しく公民館の職員が併任制をとっておりましたので、このことについて聞いてみました。併任制というのは、公民館の職員が政策企画課と併任という辞令が出ております。それについて、どのような影響があるのか伺ってみました。2館とも併任の理由説明はなかったということでした。実際に業務に何かの影響があるのか伺いましたら、体育館等のスポーツ施設の貸し出しの時の鍵の管理があり、それに人手を取られるということ。公民館事業に当たる職員の実数が減っているという実態がありました。これも目に見えないところで、公民館の力がそがれているのかなと、私は少し心配になりました。

また、区の事業計画についてですが、美術館、公民館と図書館の事業がだぶっているという話が出ました。これは私も実際にチラシを見たりして感じたのですが、縦割りによる弊害が見られるので、企画を立てる時には調整をしてほしいという意見がありました。

ここにも書いてありますが、調査内容の計画に対する要望については、審議委員会が無理に一つにさせられたという不満が出ておりました。その他の不満も少し聞かれました。これは、新津公民館が他とは特殊な運営の方法をとっているの、従来どおりの公民館と一緒に、一つの公民館だと言われても、抵抗があるのかなと感じました。やはりこういうものは、時間をかけて丁寧に説明をしていかなければならないのかと思いました。一体感の醸成には、いまして少し時間がかかるものと感じました。あとは、内田先生、追加でお願いします。

(齋藤議長)

では、内田委員さん。

(笠原委員)

すみません、もう一つ、特徴的なことで、小須戸地区公民館の活動の中で、新津南高校を開放して、一般教養講座を開設しているという話がありました。公民館の活動の中には幼稚園、保育園、小中高、専門学校、それから大学などの教育機関が関係しておりますが、高校との活動が盛んな例は非常に少ないと思っております。このような中で高校が、毎年学校を開放し、高校の教師が講師も務めているというような例はとても珍しいと思いますし、いい事例だと思い、ご紹介させていた

だきます。あとは内田先生から補足を。

(内田委員)

ほとんど付け加えることはないのですが、笠原委員からもお話がありましたように、秋葉区は非常に広報活動を活発にやられていて、かなり工夫もされて、全戸配布を実現されているのですが、最後の方に出てきたのですが、うまくいっている地区であるにもかかわらず、やはりかなりこぼれてしまっているものがあるようです。先ほど、元々社協の活動から始まったもので、今は公民館を基盤に活動を展開している例のお話がありましたが、わりとインフォーマルな形でサークルやグループが、結構小さい規模のものまで含めると相当数あるものが、すべて公民館で把握されているわけではないらしいという、その辺をもうちょっと掘り起こして、掲示板のような機能を、連絡調整を公民館が一つのベースになって、ネットワークの結節点になってやっていくという掘り起こしの余地は、ここまでうまくいっている地区でもあるようなので、他の地区でも多分そういうことはあるのではないかと、つまり、公民館の方で把握しきれていない活動というのは、かなりあるのではないかと感じました。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございました。続きまして、南区の長谷川委員さん、お願いします。

(長谷川委員)

南区を担当させていただきます長谷川です。私は今回が初めてですので、言葉が足りない部分がありましたら、ご一緒させていただきました先生方に補足いただければと思います。

まず、「住民の学びの実態と今後の方向」のところで、早速、誤字がございまして、「北海道の月潟村との交流」というのが、月潟地区でございますけれども、「月潟」の「潟」という字を「形」にお直しいただければと思います。

南区の大きな特徴としては、郷土に根ざした工芸や文化、凧合戦や白根のしぼりといったようなものがございまして、それをうまく守るといふか、生かすという形でやっていらっしゃると感じました。白根地区、味方地区、月潟地区、それから当日はご欠席でしたが、茨曾根地区では、合併前と大きな変更は特にはないが、月潟地区で「こども大凧合戦」という取り組みを合併後に初めて取り入れたこと。元々地元にあった風習というのとも違うので、保護者を中心に、この風習の定着や盛り上げといふところを工夫をしているところだといふようなお話がありました。

それから、「住民の学びの実態と今後の方向」では、どの地区からも聞こえたのが、若い層が加わってこないという声でした。

あと、新しいサークルやグループができていないといふところがございまして、おおむね既存のものが引き継がれて運営されているが、若い層が加わってこないといふので、少し縮小傾向が見られるといふことでした。

それから、施設の利用に関しては、有料、無料については大きなポイントで、一つお声としていただきましたのが、判断に柔軟さがほしいといふことでした。施設利用は原則有料だが、減免措置があるとか、体育館など利用されていない未稼働施設の目的外利用については、割引や減免などといった特例措置があってもいいのではないかといふ声がありました。

また、学校の利用については、部活動のサポートという形で地域の方が入られていることはあるようですが、小学校内でのサークル活動的なものがあまりないといふお話がありました。ただ、中学校ではパソコン教室など、中学校施設を活用した事業というのが昨年からはまったばかりですが、かなり好評ですといふ声がありました。

次に、「社会活動への取り組み」ですが、ボランティアは、学校ボランティアも合わせて100名規模集まったらしいのですが、単発的な、イベント的な働きかけに対する反応、つまり、イベントをやるので、手伝ってくださいといふものに関しては非常に反応がよいが、継続的にかかわっていく地域おこしや、学校との連携といふことになると、少し足が遠のいている傾向があるといふようなお話がありました。

味方地区は、学校に地域教育コーディネーターが入っており、非常に成果が上がっていると感じ

第28期新潟市社会教育委員会議

たのですが、一つ聞かれた声として、学校現場の先生方は忙しそう、綿密に計画を練って、これを興しましようといったような話し合いがうまくできていないということでした。ただ、公民館、育成協、PTA、親父の会、学校などがすべて連携を取って「星を見る会」を開催して、非常に実績を上げているという報告がありました。

計画に対する要望では、地域教育コーディネーターから一つ言われたのが、人員の増員、もしくは毎日勤務できるような体制を整えてほしいということ、費用面では、今後経過をもって削減されるということについて不安があること、それから、ブロック別のコーディネーター間の情報共有ができるような会議を設けてほしいということでした。

また、南区では、独自性を生かした制度の導入を検討してほしいということでした。

公民館自体が、どこかに集中的に学習センターのような形として成り立つのではなくて、地域づくりと人材づくりの場ということで、地域に一つあるという形を保ってほしいということ。

また、忙しいお母さん、お父さんが多い地域ということで、どこもそうだと思うのですが、近くに子どもの足で通える場があるというのは非常にありがたい、あってほしいという声も聞こえました。

その他ですが、先ほど秋葉区では、広報活動が上手だという話がありましたが、学習館での情報発信は非常にされているのだけれども、サークルのPRなどはきちんとやっているつもりだけれども、実は蓋を開けてみたら、限られた方に対してのPRであるというようなこともあり、PRの媒体として、ウェブ上というよりは、紙のチラシを地域の小学校で手配りといったような形をメインにやってきたというお話があり、そういった意味では、そこに届かない層に対して広く公募するようなことを考えていってはどうかというようなお話をさせていただきました。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございます。それでは、西区・福島委員さん、お願いします。

(福島委員)

では、よろしくお願いします。西区の学習の実態であります、いくつかまとめておきました。連携で効果を上げている事業としては、大学との連携利用とか、地域学における連携であるとか、地域と公民館で安全マップづくりをしていることなど、連携がうまくいっている例がいくつか出されました。

また、マンネリ化ということで、このマンネリ化というのは、これから話すところにいつもついてくる言葉ですが、西区は公民館活動が、おそらくかなり早くから成されていた所であると思いますが、最初に頑張っていた人たちが次の世代と交代してくるあたりが、なかなかうまくいっていないのかという感じを持ちました。マンネリ化ということでもあります。

それから、新しい試み、内容を工夫する、つまり社会教育の内容を人権講座というようなものをやっていく時に、名称を少し変えたり、工夫をしたりすると、参加人数が増えたというような工夫の話がありました。

その他、地域づくりを視野に入れた取り組み、施設の特徴を生かした取り組みを話されていました。

最後の施設の特徴を生かしたということですが、ホール・ギャラリー等がある大変広い施設でありますので、そこをうまく使った文化祭等が行われているということでした。

次に、グループ・サークル活動では、このグループ・サークル活動においても、硬直性が言われておりました。仲間づくりが固定化して、新しい人が入らない。マンネリ化で高齢化が進んできている。それから、既存のサークルが既にしっかりした組織を持っているために、新しい人が入っていかうとしても、違和感があるのではないかというような話です。

公民館を開く試みとして、サークルを開いて見せたい「公民館公開の日」ということで、こういう活動をしているので、いつでも見てくださいという「公民館公開の日」などを手がけていっただうかというような話が出されていました。

また、リーダー性についての話もされており、グループやサークルを強く引っ張っていくリーダー

ーがいることが、望ましいということです。世話人の人数が増えないというあたりも、やはり問題があるということでした。

それから、施設利用については、利用者数に追いつかない脆弱な施設であるので、これが大変課題であるという話です。

それから、運営協議会も交代がなかなか難しいというような話で、全員を思いきって入れ替えてみたというような対策もとられているようです。

「社会活動への取り組み」についてですが、これは政策企画課でしたか、どこの課だったかはっきり記憶していないのですが、その地区のボランティアをアンケートで募集したようです。ただ、それは公民館が全然知らないところで行われてたということで、その辺の行政の連携がうまくいっていなかったのかなと感じました。ボランティアを募集しても、なかなか集まらないというようなことがあったようです。

また、学校との連携についての話しがいくつか出ており、学校との連携は、なかなか難しいなという意見が出されていました。今ほどの報告でもずっと出されてきたように、学校との連携が一つの大きな課題なのかなと思っています。

報告を聞いて思ったのですが、敷居が高いことや、指摘されたのは、学校の教員は異動により替わってしまい、前の成果が引き継がれていない、常に新しい白紙の状態では教員は公民館職員と話をするというような指摘もありました。両方の歩み寄りといいますが、公民館も、それから学校も連携していくのだと、あるいは融合していくのだという気持ちを持ってやっていくことが大事なのかなということ、私なりに感じてきました。

「計画に対する要望事項」については、ある委員から、団塊の世代という言葉が嫌いなのか、団塊の世代という言葉あまり使わないでほしいと言っておりましたが、いずれにしても、中高年の居場所を盛り込む、ということこそ是非、お願いしたいということ。それから、コーディネート機能、人づくり、地域づくり機能、地域の情報センター機能、人を育てる機能、地域を作る機能など、公民館でなければならないことなので、それをしっかりと位置づけてほしいという要望がありました。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございました。最後に西蒲区・真島委員さん、お願いします。

(真島委員)

西蒲区を担当しました真島です。私が発表しますが、五十嵐先生、内田先生、補足をよろしくお願いします。

「住民の学びの実態と今後の方向」ということですが、各地域の特色ある事業について、報告書に書いてきました。少ない、多いは地区によってありますが、それぞれの地区で特色のある活動がなされているということを感じます。

次のグループ・サークル活動に関して苦慮していることは、どこの地区でも共通しているようですが、高齢化が進んでいることによって、特に指導者の高齢化が進んで、そういう人たちが徐々に少なくなっている為、今後のことが非常に不安でもあるし、現実にも苦慮していることが多いということでした。

それから、活動そのものがマンネリ化してしまい、それによって参加者が徐々に減ってきている、何か新しいアイデアを出していく必要があるのではないかとことを言っておられました。そのためには、特に団塊の世代の中でも男性をいかに取り込んでいくのか、男性を取り込むことによって、それまでの職業経験を生かしたいいろいろな講座を開いていくと、グループ活動、サークル活動が活発化するのではないかと意見が出ました。しかし、現状はどうしても男性の参加というのは、どんなグループでも少ないというのが現実ではないかと思えますし、団塊の世代と言っても、これは私の意見なのですが、まだまだ現役で仕事を兼ねたものができるということで、参加する人たちが少ないのかなと感じます。

それから、施設の利用については、公民館はほぼ有効に使われているという意見が多かったです。

第28期新潟市社会教育委員会議

それから、子どもの活動には施設使用料はかからないが、光熱費がかかるので、これを予算で組んでもらえないだろうかという意見、それから、図書館には図書室はあるが、本が非常に少なく、借りる人も少ないと、要するに有効に使われていないのではないかという意見です。主に中学生の勉強室になっている、これは、いいような悪いようなというのが現状ではないかと思います。多目的ホール、これは西川地区だったと思いますが、もっと活用するために、旧市内で活躍しているグループを招聘したりすることも、考えていったらいいという意見も出ておりました。

そして、「社会貢献活動、ボランティア活動」ですけれども、こういう活動をするようになって、高学年の生徒が低学年の面倒をみるようになったとか、あるいは他の中学校の生徒と友達になった子どもが増えたり、これは非常にいい傾向ではないかと言っておられました。また、ボランティアにただ参加してもらうだけではなく、その後に報告会など、もう一度集まって会話する場所があると、さらにまた次のボランティア参加が、生き甲斐になってくるのではないかという意見です。

全体的に言えることは、いろいろなところで予算をつけてほしいという意見が多かったのですが、予算がだんだん減ってきているので、現実には難しいだろうと私は感じています。それだけにボランティア活動の活発化ということが、予算を減らしてでも人が参加できるような工夫をすることで、集中化といいますか、効率化もできるのではないかと感じました。ですから、運営ボランティア育成のための予算をつけてほしいという意見には同感します。

最後に、「計画に対する要望事項」ですが、先ほど予算の件はお話しました様に、おおまかにはそのようなことなのですが、地域教育コーディネーターからは「4月にスタートするなら、3月中に研修を実施してほしい」との意見がありました。これは、今年初めてコーディネーターとしてに参加した人から、初めのころは何をしてよいのか分からなかったという意見であったかと記憶しています。早めにコーディネーターの研修ができれば、もっと参加意識も高まるのではないかと感じます。

最後に、「合併前と後」について、先ほど秋葉区からも出ていましたが、デメリットとして、職員が少なくなって非常に不便を感じているということ。担当者が出張になると、一人もいなくなってしまいう時があるという意見がありました。これは早めに改善していかないと、まずいなと私は感じていました。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございました。それでは、秋葉区から西蒲区までの報告についての質疑応答に入りたいと思います。聞いてみたいこと等がございましたら、お願いします。

(笠原委員)

どなたもないようなら、一つ、お願いいたします。できるだけ委員にということですが、事務局にです。

南区で伺いたいのですが、この調査をするにあたりまして、参加できない公民館、小さな公民館のところには、文書で回答してもらったらどうかという意見が、南委員から確か出されました。そうした要望とか、計画に盛り込む要望等を聞くというのは、公平性の面で私は必要なことだろうと思っておりました。

南区なのですが、他に類をみないほど公民館の数の多いところ。白根地区だけでも、白根地区公民館の他に10館あります。味方地区にも他に3館ありますし、月潟にも2館あります。当然、ここに会議に出られない地区の公民館があったと思うのですが、そこからは文書で何らかの回答をもらっているのでしょうか。

(齋藤議長)

ここでは私もおりましたが、長谷川委員さん、文書はありましたか。

(長谷川委員)

ありません。

(齋藤議長)

では、課長さん。社会教育委員会議ででていた要望について、ちゃん行ったのかと言う、質問

なり確認だと思いがすが。

(玉木生涯学習課長)

分館、地区館とがあり、今回、調査においでいただいたのは、地区館の職員の方まででした。分館につきましては、職員は出前講座という形で、そこに実際に居るわけではありません。基幹公民館、地区公民館に職員が居るわけです。それぞれの館の中で分館に出前に行って、そこで仕事をしているということですので、当然のことながら、その分館の状況については職員が理解していると思いがして、お話の件については実施しておりません。つまり基幹公民館、地区館の職員にアンケートするのと同じことですので、やっております。

(齋藤議長)

という回答です。笠原委員さん。

(笠原委員)

分かりました。

(齋藤議長)

内田委員さん。

(内田委員)

西区の「社会活動への取り組み」で、人材発掘のところではいろいろ問題が多いというお話でしたが、よくイメージできなかったのですが、各戸に募集をかけて、申し出ても不適切な場合というのがありますが、この場合はどういうケースなのでしょう。申し出ていなくても、適任の方がおられるというのは十分に分かるのですが。

(福島委員)

ここに館長さんが来ているので、私が話して、あとは補足してもらえばいいかと思うのですが、つまり側の人が見て、申し込んだけれども、あの人は、あまりうまくないと周りの人が思うということでもあります。

(内田委員)

実際、その人は任用されないということではなくて、そこはフィルターがいろいろとかかるのですか。

(福島委員)

フィルターはかからないのでしょうか。

(内田委員)

分からないですけれども、何となく雰囲気は察するのですけれども。

(齋藤議長)

どちらに聞けばいいのでしょうか。坂井輪の上西さんはおられますね、そこは事情が分かりますか。お願いします。

(上西坂井輪地区公民館長)

これはニュアンス的に違う形で伝わってしまったかと思いがしていますが、実は区役所の政策企画課で人材リストを作るという事業を、特色ある区づくり事業ということで取り組みました。19年度の一つの事業でございます。

その話は、そもそも学校の校長先生から、各学校ごとに人材リストは持っているのだけれども、共通で使えるものがまだないので、そういうものができるといいですねというお話を受けまして、そういう声がありますよと、私が政策企画課長にお伝えいたしました。それを受けて政策企画課が実施いたしました。もう少しきめ細かく各学校にご説明をしてから取り組んでいただければ、その問題はなかったのですが、結構自分たちの思いこみでやったので、アンケートを出して、各学校から、こういう人がほしいですという意見をいただきました。その意見がそのまま募集に載るといった認識が学校側にはなかった。おかしい形で出てしまい、本当に学校側が意図した方が募集されなかったという実態がございました。全部申し出を受けた後に、各小中学校の校長先生と担当の先生からお集まりいただき、その辺については修正をかけて、整理をさせていただきました。

第28期新潟市社会教育委員会議

この不適切な場合というのは、そういう事情があったものですから、学校側の意図したような表現で、こういう人を小学校、中学校、行政、幼稚園、保育園、公民館も入りますが、高校で求めていますというものを作って、全戸配布でやってしまったのです。そのところで、今申し上げたようなズレが生じたものですから、こういう方も申し出があったりして、少し整理をさせていただき、今現在は整理が終わりましたので、順調に進んでおります。

(内田委員)

ミスマッチが起きてしまったということです。これは元々は、個別具体的には、学校の授業補佐をしてくださる方を募集した際に、そういうことが起きたということでしょうか。

(上西坂井輪地区公民館長)

授業補佐もそうですし、学校の環境整備、それから保育園・幼稚園では、お子さんの送り迎えもしてほしいというようなことまで出てきてしまったのですが、そのあたりもよくお聞きしながら整理をすればよかったのですが、そのまま載せてしまったことで、いろいろ問題が出てしまいました。

(齋藤議長)

念のため、公民館がやったのではなくて、区役所が慣れないで頑張ったために、ちょっとおかしい形になったということで、それを報告の時に、これは坂井輪公民館がやったことではないということを入れればよかったですね。区役所でやったので、今思い出しましたが、区役所もノウハウを持っている公民館によく聞いてやるようにすれば、もうちょっと地域全体でうまく動くのではないというのが、ご意見の趣旨だったようなことを思い出しました。よろしいですね、確かそんなニュアンスで受け取っていました。内田委員さん、よろしいですか。では、南委員さん。

(南委員)

秋葉区の中で、先ほど高校を開放して一般教養講座を開催とありましたが、これはそもそもどちら側から言い出しっぺといたしますか、始まった事業なのでしょうか。

(笠原委員)

大変申し訳ありません。そこまでの話はありませんでした。館長さんをお願いします。

(杉本小須戸地区公民館長)

小須戸地区公民館館長の杉本でございます。新津南高等学校開放の学校開放講座という講座です。今年で25回目、既に数日前から第1回目が始まりましたが、長い歴史を持っています。25回というと25年前ですので、どういうきっかけで始まったかというのは定かでない面があるのですが、元々高等学校では、学校開放講座というものが、いわゆる県の一つの教育方針の中で打ち出されてきました。そういう中で、ちょうどお互いに意見が合ったというのが正しいのではないかと思います。始まってから個々に学校でやってきたところはありますが、それは自然消滅した形で、多分現在はそういう形で行われている。小須戸地区公民館というか、新津南高校は県でないと思っておりますが、県から出た動きと公民館の動きが、ちょうど重なった形で多分始まったもので、どちらから声をかけたのではなくて、お互いに連携しながら出てきたものではないかという印象を持ちます。どちらかと言えば、高等学校で最初は音頭を取っていたかもしれませんが、その辺は定かではありません、申し訳ありません。

(齋藤議長)

スタートの頃は、25年前なのでよく分からないと、今は公民館と高校で、半々でお互いに協力してやっているということです、南委員さん、よろしいでしょうか。別の委員さん、私のほうからちょっと振りますが長谷川委員さん、今、秋葉区は、笠原委員さんがFMの話をされましたが、情報の共有地域ですが、白根地区は紙ばかりやっていると長谷川委員さんから指摘がありましたが、長谷川委員さんの趣旨はどの辺にあるのでしょうか。

(長谷川委員)

いわゆる情報を公民館に立ち寄って手に入れることができないとか、例えば働いていて、そういう情報を得る機会が少ない中だと、ウェブ上などに、有意義な取り組みで、募集がかかっていけば、フットワークは軽い層が多いでしょうから、とっかかりやすいのではないかというのが思いとして

ありまして、PRの方法をもう少し多様化してあげることで、若年層が参加しやすくなるのではないかという感じでした。

(齋藤議長)

社会も変わってきているから、新しい媒体も使ってやったらということでしょうか。分かりました。だけど、長谷川委員さん、新津と小須戸の館報みたいなものはどうでしょうか、きちっとしたものをを出している珍しいところだという報告がありました。

(長谷川委員)

私自身が住んでいるのが中央区で、区報や市報はよく目を通していますが、例えばあれ以外にも山のように素晴らしい取り組みがある中で、あれしか情報がないという感じを受けます。

(齋藤議長)

分かりました。館報などはしっかり情報を出しているのだけれども、気に入ったのだけ載せているのではないのと、もっと全部きちっと広報するためには、ウェブ上に出すとか、もっと工夫をこれからやっていったらいいのではないかと、そういうことでしたら、私もよく分かります。特定のものしか流れていないのではないかと、そういうことですね。分かりました。他にございますか、よろしいですか。

それでは、訪問調査報告の質疑は、以上で打ち切らせていただきます。またお気づきの点がありましたら、事務局にお尋ねください。先ほどの笠原委員さんの広報など、事務局においてあるというので、ご確認いただければありがたいと思います。

では、議事の(2)ここで10分休憩を入れる予定だったのですが、時計を見ていると心配になってきましたので、申し訳ありませんが先に進みますがよろしいでしょうか。

(2)「生涯学習に関する市民意識調査の分析結果」について、調査結果の概要について、課長さん、お願いします。

(事務局：生涯学習課長)

それでは、資料2をご覧ください。

本調査が生涯学習推進計画の策定の基礎資料として実施したものの、冒頭でも申し上げましたが、単純集計が仕上がってまいりました。なお、分析は今後の作業になりますので、この資料については、席を立たれるときには、机上に置いていただきたいというお願いをさせていただきます。

「調査の設計」について(2)(3)は、標本数で20歳以上の市民、2,500人に対して調査を行いました。(4)標本抽出は全体を区ごとの人口割で層化いたしまして、抽出する方法をとりました。

(6)調査期間は、5月29日から6月10日の約2週間で留め置きで郵送で行いました。

4「回収結果」です。2,500人に対して有効回収数が1,315で、回収率は52.6パーセントとなっております。実は平成11年に同様の調査を実施しておりますが、その時の回収率は43.7パーセントでしたので、今回はそれを8.9パーセント上回る回答をいただきました。また、各区ごとの母集団の数、区ごとの標本数、各区ごとの回収率についても示しております。

次に、8ページ「自由時間の使途」ですが、ここまでが回答者の属性で、それをグラフにしたものです。もう既に委員の方には事前にお送りしてありますので、目を通していただけたかと思しますので、説明は省かせていただきます。

ただ、4ページの下段に「年代別」というのがありますが、10代、20代となっており、その途中、50代と60代に7.5パーセントの団塊の世代が入っております。今回の集計の中では団塊の世代を特筆させていただいております。団塊の世代とは、昭和22年から24年生まれの61歳から59歳に至る世代で、その特徴を調べてみたいという思いから抽出したもので、特別に枠を取っております。正式に調査報告する場合には、各年代の50代、60年代というものも、併せて報告をさせていただく予定です。以上、調査の概要について、ご説明いたしました。

(齋藤議長)

ありがとうございました。それでは、「生涯学習活動への関わり及び人との関わりについて」の結果については中村委員さんに、「社会的活動への関わり」については、内田委員さんをお願いしてあ

ります。では、中村先生からお願いします。

(中村委員)

それでは、資料2の11ページをご覧くださいと思います。生涯学習活動を実際に行っているということなのですが、今年5月に内閣府から出された全国調査によると、1年くらいしていないという人が、全国では51.4パーセントありますが、新潟市は特にないないという人が39.7パーセントで、全国レベルよりは、している人の方が多いという結果になっています。ここでは、設問ごとの順番になっておりますが、報告書では、多い順番から並べてお示しすることにしてあります。

一番多かったのが、スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関することで、これは全国と同じような傾向になっております。大きな字、太字で書いてあるところが一番特徴的なことなので、そこを見ていただきたいと思います。

次に、13ページ「生涯学習活動の実施方法」では、どんな方法で行っているかを聞いたものです。ここでは、本・雑誌・新聞というのがダントツに多くなっていますが、年代によってかなり格差がありました。特にインターネット、携帯電話では、20代が非常に高く、30代になると、がくっと少なくなり、あとは年代ごとにだんだん少なくなるという、年代的にかなり差がありましたし、男女差も見られましたので、そこらへんも併せた分析ができればと思っています。

次に14ページ「団体などの活動内容」では、付問という形になっています。仲間とやっているグループ・サークル・団体などに回答した人が、ここではどんな活動をしているかについて答えていただいております。多いのがスポーツ、レクリエーション、課外活動、野外活動となっています。次に多いのが、地域づくり、ボランティア活動ということですので、グループ・サークル・団体活動をしている人の3割弱ですが、地域づくり、ボランティア活動に参加しているということが分かるかと思えます。

それでは、15ページです。「活動場所」は、圧倒的に自宅が多い。次に、公共の屋内外施設となっており、見ていただいた通りです。

番、「公共施設の種類の種類」では、生涯学習センター、公民館、学習館が多く、次に同じくらいの割合で体育・スポーツ施設となっています。ただ、これは区にどんな施設があるかによって違いがあり、特に区の中に図書館があるところとないところとでは違ってきますので、区による違いというものを見てみたいと思っています。

次に17ページ「活動場所の所在地」では、圧倒的に新潟市内で行っているとなっています。また、7番「習得した知識などの活用先」では、自分の趣味の活動に生かしているというのが、66.5パーセントと一番多くなっておりますが、自分の健康づくりや趣味などは、結構年代の高い人に多く、20代や30代といった若い人では、仕事や就職、資格に生かしているというように、年代によってこれも違いが見られたところです。

では、19ページになります。これは最初の設問で、実施している生涯学習活動に相対応すると思えますが、「今後実施したい生涯学習活動」についてお聞きしたものです。先ほど実際に実施していると聞いた時に、「特にないない」という人は39.7パーセントあったのですが、希望として「特にないない人」は16.5パーセントということで、今はしていないけれども、やってみたいという人が、他にも多くいるということが分かるかと思えます。多い順番については、実際にしている生涯学習活動と相対応するような結果になっておりますが、「している人」よりも「したい」と思っている人が多くなっているというのが、それぞれの項目で言えるかと思えます。

「市へ要望する生涯学習活動施策」では、1番が、利用できる施設の数を増やす。先ほどの報告にも施設の数というのがありました。それから、講座や行事、イベントを増やすという、この二つが大きく目につくかと思えます。

では、次に「入手したい情報」先ほども情報の話が出ていましたが、半数以上となっているものが、講座や催し物についての情報となっています。次が、施設の内容や利用方法についてとなっています。

ここから先は内田委員の方から説明がありますので、31ページをご覧ください。今回は「人との

関わり」について質問させていただきました。これは大まかな集計結果になっていますのでよく分からないと思いますが、年代ごとでみますと、どの年代の人がどの年代と関わっているかというのがわかりますので、年代ごとの表を載せて、その分析結果を載せたいと思っています。基本的には、自分と同じ代の人との関わりが多いというのが共通して言えることです。小学校、中学校との関わりでは、お母さん世代と小学校の関わりが多いというようなことで、親子関係で関わりが多いかなというのがあります。ただ、小中学校以外の10代が4.8パーセント、中学校が7.2パーセントと非常に少ないパーセントになっているところは、注目するところかと思っております。

次、「活動上の関係者」どんな人と関係しているのか、関わりを持っているのかということでは、一番多いのが、「一緒に活動している人はいない」です。している人の中で一番多いのは、やはり共通の趣味や目的を持つ人というのが一番多くなっており、その他は友人、近隣の住民、地縁とか、知人という形になっております。

これは、実際にどう関わっているかということですが、次をめぐっていただきますと、意向としてはどうなのかということで、同じ質問をしております。圧倒的にいろいろな人と関わってみたいということが多い。例えば先ほど小中学校以外の10代、中学生というのは非常に少なかったのですが、してみたいと思っている人、関わってみたいと思っている人は、より多いのだということが言えると思います。

それから、34ページの「関わってみたい活動上の関係者」では、先ほどの実際にしているというところと対応はするのですが、パーセント的には実際の数よりも非常に多くなっています。例えば共通の趣味や目的を持つ人というのは、実際は29パーセントですが、関わってみたいと思っている人は、それもダントツ1位なのだけでも、60.7パーセントというふうに、実際に関わっているということと、もっと関わりたいと思っている人たちの落差が非常に大きいというのが分かるので、そこら辺のところをどう埋めていくかということが、今後の課題だと思います。詳しい分析はこれからになりますが、年代的な違い、また、区による違いなど、そこが顕著なところは表を載せるなどして、より詳しい報告ができるようにしたいと考えております。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございました。それでは、引き続いて「社会的活動への関わり」について、内田委員さん、お願いします。

(内田委員)

22ページに戻っていただきたいと思っています。実際の報告書では順番を変えるかもしれませんが、調査票の上では、「社会活動への関わり」という質問が、学校との関わりから始まっています。これは「学社民の融合」というスローガンを掲げているわけですが、それに関わる質問が一つ最初におかれています。

これを見ていただくと、「去年1年間、学校へどういう用務で行かれましたか」では、「行かなかった」という人が6割位で、皆さんが学校へ行くのも妙な話ですので、4割位の人が学校に何かの用事でいったという回答になっており、実際、単純集計を見ているだけだと分からないのですが、回答パターンをいろいろなやり方で見ています。

そうすると、学校に行くという人たちは、四つくらいのグループに分けられるかと。一つは、保護者なり通っている児童・生徒の親族として用事があるというのの一つです。それはここで言うと、授業参観や懇談などの学校行事、それから授業を見に行ったりするPTA活動、そのあたりが一つです。

もう一つは自治会活動というか、町内会活動に関連した事柄で尋ねているのもあって、セーフティ・スタッフもそうですし、特別支援教育ボランティア、非行防止活動、それから地域の行事のためという回答が、そのグループになります。

それから三つ目が、学校開放でスポーツや文化活動をやらせてもらっているので通っているという、三つ目のグループです。

四つ目は、「学社民の融合」というコンセプトからすると、関わってくるのがここですけれども、

学校と地域をつなぐための何らかの活動をするために行っているという人たちですが、読み聞かせなどのボランティア活動や授業補助、ふれあいスクールボランティアのために通っていると、これは単純集計で見ると非常に数が少ないのですが、6割の人たち、「行かなかった人」を外に出すともうちょっと増えますが、少ないことは少ないと思います。ただし、回答パターンを見てみると、この人たちはある程度地域行事で通っている人とだぶっている部分もありますが、このグループとして含み出されてきているというのは、注目に値するかなと思います。つまり、こういう活動を行政である程度プランを立ててチャンネルを作ったために、放り出して来られた人たちが、少ないけれども登場しだしているという兆しは読み取れるかなと。ファーマーシップ事業なども、まだ始まって間もないですし、もうちょっと熟成するまでに時間が必要だと思いますが、可能性は感じさせる結果になっているかと思いました。

それから、23ページですが、これは前回の調査でも聞いているのですが、あまり変化がなくて、社会活動に参加した経験を持っている人は、回答してくださった中の6割くらいだということです。内訳はこのようになっています。こちらもだいたい回答パターンで大きく二つに分類できると思います。一つは、ローカルな活動です。ローカルのタイプの社会活動というので、地域行事もそうですし、防犯・防災・交通安全とか環境美観、このあたりは回答パターンがすごく似通っているので、非常にローカル色の強い活動ということです。

それからもう一つが、非ローカル、そういうローカル色が非常に希薄、どちらかと言えば薄いというタイプの活動で、文化・芸術、それから健康づくりもある程度そうでしたし、人権擁護とか国際交流というのがそういうグループに入っているのと、あまりローカルなものに規定されないというか、限定されない活動というのがあり、その二つが回答パターンとしてははっきりと分かれているということが確認できました。このあたりは、活動に参加するきっかけと密接に関わっているところ です。

次に、「活動に参加したことはない」という人が4割ほどおられましたが、「なぜですか」と尋ねると、「時間がなかった」と言っています。これを真に受けることができないのは、実際に平日、休日の自由時間を今回聞いているので、休日も平日も暇な人も忙しい人もいるわけですが、まったく関連が見られません。つまりどのくらい自由時間があるかという話と、参加・不参加の区分けというのは、まったく関連性が見えてこないというので、これは聞かれたから答えているだけということで、あまり分析のところではまともに取り扱わないようにしようと思っています。むしろ他のところを細かく見ていく必要があるかなと、それをこれからの課題にしているのですが、「時間が足りない」という以外のところでどういう理由があるのかなというのは、もうちょっと丁寧に、これからいろいろ見方をしてみたいと思っています。

25ページです。きっかけですが、回答パターンを見ると、大きく二つのグループに分かれます。それは名前を付けるとすれば、直接型のもので間接型のものであって、誰かに個人的に誘われたからというタイプのものが一つ目で、一番多いのが、「頼まれたから」です。これは前回の調査でも、新潟市の場合は顕著で、日本全国そうなのかもしれませんが、ボランティアというのはボランティアの活動ということで、元の意味はうるさくたどっていくと自発的にやることなので、頼まれてやるボランティアというのがあるのかという話になりますが、実際にはほとんどそういう形で、頼まれてやっているという回答が多いです。これは、先ほどの活動の種別というか、タイプ分けで言うと、ローカル色の強い活動に参加している方々のきっかけを聞くと、やっぱり「お願いされたから」という回答が目立ってくるという形になります。そういう形で、知り合いとか、役場の人に頼まれたから始めたというのが一つで、もう片方は、ネットとかメディアの情報を見て、それをきっかけに参加に踏み切ったという回答も、パターンとしては一つのグループとして別れてくるということで、直接的な情報収集と間接的な情報収集と、二つのタイプがあるようだと。その二つはあまり重なってなくて、こっちの人はこっちのタイプ、こっちの人はこっちのタイプとはっきり分かれているという見通しを持っており、もうちょっと見込みで分析を重ねていこうと思っています。

それで、同じことが次の質問にも言えますが、活動をやっていく上で、これは活動をした経験を

持っている人だけに聞いていますが、役に立った情報なり機会は何ですかと聞くと、次のようになります。これも講座を受けて、その知識を元に展開していくというパターンもありますが、どちらかと言うと、自分の活動で得た経験や、「仲間からの助言がためになった」というような、直接性の強い情報を元に経験なりを豊かにしている方と、メディアの情報に頼っているタイプとに分かれそうかなという見通しを持っています。

それから、27ページの、さきほど「活動に参加したことがある」と答えた方は、経験で1回でも参加した人は6割いましたが、皆さんの継続状況を聞くと、4割程度になります。残り6割の方は、休んでいるか、やめているという状態にあるということです。休んだり、やめたと回答された方に理由を聞くと、「時間が足りなくなった」と、これもさきほどの理由で、時間以外に何か理由があるだろうということで、他の理由付けのところをもうちょっと細かく見て、これはよくつかめないかもしれないかと思っています。

今後実施したい、今後やってみたい社会活動、これから先やってみたいものとしては健康づくり、これは複数回答で聞いていますけれども、「特にない」という人も4人に1人くらいいますけれども、こんな感じになっています。

それから、30ページにあるのが、「社会活動に参加する際に整備されてあるべき条件をどう考えますか」と聞いていますけれども、時間のゆとりというのは除いて、他にどういうことがあるのかというのをいろいろな角度で見ていきたいと思います。分類できる地区があればですけども。

ここには載っていませんが、最初に生涯学習活動への参加状況と社会活動への参加状況、この質問集の全体の中では両方とも聞いているので、掛け合わせてみると、生涯学習活動への参加経験がある人は、社会活動にも参加経験があるという傾向がはっきりと認められます。ただ、これは因果関係をそのまま示しているのではないので、生涯学習活動に参加したことがきっかけになって社会活動にも参加しだした、というふうには、まだこれだけではよめませんが、逆の方向もあるかもしれませんし、ただ、生涯学習活動へ参加している、しかもこれは複数回答で聞いていますので、複数参加している人は、社会活動への参加後も参加は高いという傾向がはっきり出ており、両者はまったく無関係ではないのかなという程度は、今現在でも言えるかなと思っています。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございます。アンケート調査の途中の分析結果でしたが、この後、さらに詳しく報告書にまとめていく形になります。今のご説明で何か聞いてみたいことがあれば、分析する時、こういうところもちょっと見てほしいというようなご要望がございましたら、よろしいですか。梅津課長さん、この辺を詳しく報告を、とかよろしいですか。

(梅津地域と学校ふれあい推進課長)

先ほど内田先生が言われたように、まだまだ新しく事業が始まったばかりで、これからいい関係ができていくと思いますし、いろいろな関わりの中で子どもたちが育っていく環境ができていけばいいなと、それを願っております。

(齋藤議長)

では、今回はデータとして、まず普通に分析してということですね。

(梅津課長)

はい。

(齋藤議長)

分かりました。

(内田委員)

私も、多分聞いても、そんなに参加経験があると回答する方は多くないだろうと思っていましたが、まったくゼロでなくてよかったなと言うのが一つと、それから、実際に回答パターンを見ていくと、他のグループとちょっと違う傾向があるのです。ここに参加してチェックしている人は、他ではあまり学校には通っていないくて、多分学齢期のお子さんがいなくて、ちょっと大きくなっているというぐらいの年齢の人がこういう形で、今回、パートナーシップのコーディネーターのこと

第28期新潟市社会教育委員会議

は聞いていませんが、ふれあいスクール事業などでも、そういう層の人たちを取り込んで展開しつつあるということが読み取れるので、ポジティブなことをなるべく言うように頑張りたいと思います。

(齋藤議長)

今、そんなふうに頑張ると、また結果がおかしい、考察行き過ぎという意見もありますから、よろしく頼みます。もし分析で、ここもちょっと詳しくとか、ご要望がございましたら、お金をだいぶ注いでデータはいっぱいあるので。報告書に入れる時に制限を加えてしまうので、ここは詳しくしてほしいということがあれば、その項目については、事務局の方におっしゃっていただければご要望をできるだけかなえるようにしていったらいいかなと思っていますので、よろしく願います。市民意識調査の分析結果については、以上にさせていただきます。

その次、(3)「指定都市社会教育委員連絡協議会参加報告」ですが、福島委員さんと笠原委員さんに参加していただきましたので、まず福島委員さんから願います。

(福島委員)

札幌市から福岡市までの政令市の社会教育委員が集まって、事務局と共に会議をいたしました。内容については、報告書にあるとおりですので、お読みいただければと思います。今回、新潟市が大きく取り上げている、学校支援地域本部事業についての話題があり、埼玉が確かたくさんの方をそれに充当しているという話がありましたが、若干報告があったようですが、それは笠原委員の報告で記述してありますので、省略します。

個人的な話ですが、私は体調が絶不調でありまして、死ぬかと思いましたが、無事に帰ってこられてよかったと思いました。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございました。では、笠原委員さん、願います。

(笠原委員)

仙台は、寒い寒い雨の日でした。この会議はまだ皆さん馴染みがありませんので、少し会の様子についてご紹介したいと思います。

会場は口の字に作っており、行政職員と社会教育委員が各政令市ごとに席に着くという形でした。ですから、全員が一堂に会して顔の見える関係での話し合いです。10時から5時まで、お昼もそこで弁当が配られまして食べるということで、かなりハードな研修でした。

内容につきまして、今、福島先生の方からお話がありましたので、印象に残った点につきましてご報告させていただきます。京都から「全国おやじサミット」を開催しているという報告がありましたし、福岡から、やはり「おやじサミット」につきまして、小中学校連携で「おやじサミット」を開催しているという話がありました。新潟市でも10年以上前から「父親学級」というのがやられており、これは、私はよそのところに誇れるものだと思っておりまして、よそはもっと規模が大きいと、ちょっとびっくりしました。ちなみに、今、中央公民館と坂井輪公民館で父親学級が開催中です。もし関心がありましたら、覗いてみていただきたいと思っています。

神戸から「奥さまのための退職後対策講座」というものを行っているという発表がありました。これは全国的に団塊の世代を対象にした講座を行うということで、公民館が取り組んでいると思いますが、配偶者を対象にしているというところに特徴があると思い、ここに書いておきました。

次に、名古屋から、マイスター制度を取り入れているという発表がありました。学習が始まる段階から学習成果を生かすシステムとして、講座を受けるとポイントにして数えていって、そのポイントをためていくと、マイスターの称号が得られるというものです。先ほどの発表の中でも、学習成果がなかなか外に出にくいという発表がありましたけれども、こうしたマイスター制度というのは、そういう意味では学習が外に出やすい、使い勝手のいいシステムかなと思いました。ちなみに新潟の場合ですと、県で県民カレッジというものをやっております。これは京都と同じでした。ただ、私は今、手帳を持ってきておりますが、これが新潟市の県民カレッジの受講手帳です。同じシステムをとっておりますが、京都はこれだけ厚くて、記載内容が多いという状況でした。それも、

第28期新潟市社会教育委員会議

ただ取り組んでいるということでも、内容に差があるのだなと思って聞いてまいりました。

埼玉では、学校支援で退職職員を活用しているという話がありました。退職職員をしっかりとした時間で組み込んでいるのですが、確かに先生のゆとりの時間を設けることはできるでしょうけれども、学校を開放していくという点では問題があるのではないかと、これは情報交換会でそんな意見が出ておりました。

また、次も情報交換会での意見ですが、全国的に公民館の名前が消えかかっている状況の中で新潟は頑張っているのだから、是非、この制度を残してほしいという激励を複数いただきました。

その次に、意見・感想のところにもそれを入れておきました。公民館の名称が消えつつあり、それに伴って所管も首長部局に変わっているところがある。でも、新潟はこれを残しているのだから、是非頑張ってくださいと、この時にも言われました。

感想として、いろいろ事情の違う都市が、社会教育をどうとらえて連携していくかというのが今後の問題だと思っておりますが、それを議論していくには、協議をしなければならないと思っております。例えば補助金の話が出たのですが、どこにいくら出しているという話をして、それは仕方がないと思うのです。どういうものを根拠にして、どういう条例を作ったか、どういう補助金制度を作っていくかが問題になってくるのであって、そうした話し合いをしていく必要があると感じました。そうやって考えますと、この会議というのは、社会教育委員であれば、誰でも出席すればいいというものではないのではないかとというのが感想です。教育基本法に始まりまして社会教育法、生涯学習振興法等の法令にも詳しい方に出ていただきたいと思っております。

参加状況ですが17都市から59名の参加でした。そのうちの27名までは大学教授と准教授でした。ここには短大1名も含んでおります。あとは学校関係者などで、社会教育関係者と言いましても、元大学の先生であったり、学校の校長先生であったりというのが実態でした。こうした内容であれば、是非ということがあれば、来年是非、心づもりしておいて出ていただきたいと思うのですが、こういう会議だということで、人選をしていただきたいと思っております。来年は、千葉市で開催だそうです。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございました。私、一つ質問で、この会議は、新潟市はいつ担当になるのでしょうか、今は来年の心配ですけれども、いつ新潟市になりますか。

(玉木生涯学習課長)

平成25年に予定されております。

(齋藤議長)

では、その時に何とか頑張って、今みたいな協議会並列の情報紹介会議でないように変えられるかどうかですね。

(笠原委員)

所管が違うところが話し合っても話が深まらないと思うのです。みんなそれぞれ、例えば補助金でも桁が違うのです。どこまで追いかけていって、社会教育の団体をどこまで認めていくかというのもありますが、例えば新潟の場合でも体育関係はもう動いていますから、そういうところまで出すのかどうかによっても違ってきますので、やはり法制度みたいなものを前提にして組織がどうであるのか、その連携をお互いに話し合っていく会議だろうと思っております。

(齋藤議長)

ありがとうございました。夜の飲み会の情報もいろいろ報告していただきまして、感謝いたしております。

では、他の委員の方、今のご報告で聞いてみたいことはございますか。では、内田委員さん。

(内田委員)

神戸の、旦那が退職した後に、善後策としてこういうのがありましたということですか。

(笠原委員)

旦那様向けの講座をやっても、人がなかなか集まらないので、じゃあ、脇から攻めようと、奥様にそういう講座をやって、旦那に行け行けと言ってもらおうという内容のようでした。

(内田委員)

奥さまのためではないのですね。

(笠原委員)

奥さまのためではないです。私の表記がおかしいです。奥さまのありようでしたね、すみません。表記に問題がありました。

(齋藤議長)

これは新潟とちょっと違うから、神戸から事業計画書を送ってもらってもいいですね。どういう違いがあるか、取り寄せればいいですからね。分かりました。では、事務局をお願いします。

(内田委員)

市長部局に所管が変更になる傾向が各市であるということですが、これはどういう理由付けがされているのですか。

(笠原委員)

先生、お願いします。

(福島委員)

私が思うには、生涯学習自体が多くの行政課・部にかかわるものであるもので、首長部局の方に生涯学習の担当課があった方がよいという、そういうことだろうと私は思っていますが。

(内田委員)

そうすると、例えば文部科学省で中央課の生涯学習部局でしょうか、が筆頭部局とかという位置づけになった変更と同じような趣旨、ウエイトが大きくて、重視されているから変更になったという解釈でいいのですか。

(福島委員)

国の場合は文科省の方で生涯学習をやっていますので、国の動きとはちょっと違うと思いますが。

(内田委員)

リンクする部分、関連する部分大きいから、リンクしてやるとうまくいくということだと、ポジションとしては整合性が上がっているという理解ですか。元々そういう実感が湧かないのですけれども、その辺がちょっと印象とちぐはぐなので。

(福島委員)

細かい数字は私も頭に入っていないかもしれませんが、首長部局の方に生涯学習の担当が行くというのは、結構増えているという傾向です。

(齋藤議長)

政令市の場合でしょう。

(内田委員)

しつこいですが、重視されているからということではなくて、棚上げするみたいな感じのニュアンスにもとれますし、これはどういう感じで述べられたのかなと。

(齋藤議長)

報告を聞く限りは、お姫様、お嬢さんみたいにひな壇に上げて骨抜きにするみたいな、全部中を外してしまって。だから、公民館も消えていくという、行財政改革の一環ではないかなと私は受け止めているので、情報交換会で新潟しっかりやってという声がいっぱい来たのかなと受け止めました。

(笠原委員)

重視されているというよりも、力がそがれているとか、拡散しているというような印象です。

(齋藤議長)

そっちみたいですね。

(福島委員)

公民館がコミュニティという名前にスライドしていきながら、コミュニティになれば、今度は自治関係の部局に入っていきわけで、教育部ではなくなってしまうのです。そういう動きが、県内でもいくつかあるのではないかと思うのですが。

(齋藤議長)

新潟市もそうなのでしょう。だから、地域協議会とかコミュニティとか、そういうことを言い出して、そっちへ予算をどんどん持っていっているのではないですか。今、新潟市もちょうど大事な時期なのです。そこを皆さんからしっかり意見を出してもらって、計画を作らなければいけないので。

(笠原委員)

ある意味で私は危機感を持って、この報告をさせていただきました。

(齋藤議長)

それは、私も受け止めとしてはいいのではないかと聞いておりました。そこは一回、この会議のきちとした議題にして話し合わなければ、計画を作れないと思いますので。市長さんにもちゃんと言わなければだめだと思っています。では、今日は出張の報告ですから、そのくらいにさせていただきます。次に進みます。

仮称、「新潟市子ども読書活動推進計画」について、八木館長さん、お願いします。

(八木中央図書館館長)

中央図書館でございます。残り2分をお借りして、少し報告させていただきます。資料の4でございます。

表裏になっておりますが、「子ども読書活動推進計画」の策定について、このことについては、1の背景の中にも書いてございますが、「子どもの読書活動の推進に関する法律」という法律に基づくもので、本市の新潟市教育ビジョンの実施計画にも盛っているものでございます。時間の関係で省略いたしますが、背景と位置づけについては、記載のとおりでございます。

計画の範囲について、子どもの読書活動については、教育の分野に限らず広範な分野が連携した取り組みが大切ですので、市長部局の関係課を含めた全市的な計画にしたいと考えております。

計画の策定については、本年度、来年度の2か年で、計画期間については、22年度から26年度までの当面5年間といたします。

次に、策定体制についてですが、子どもの読書活動に関係する各分野の有識者で構成する有識者会議を設置し、この会議を中心に計画づくりを進めたいと考えております。構成メンバーは大学の先生、研究者の方々、それから小中の校長先生、児童文学作家、小児科医などを想定しております。

次に、庁内の検討体制については、教育委員会関係10課ですか、関係する課と、市長部局の保育課など、全体で16課・機関で構成し、中央図書館に事務局を持たせていただくということにしております。

策定の主なスケジュールについては、6番に記載のとおりでございます。この秋口には、有識者会議を立ち上げたいと考えており、今現在、現状と課題の整理をしているところでございます。来年の春先には、中央都市を招いた市民フォーラムなども開催したいと考えております。参加者のご意見を伺いながら、この計画づくりを進めたいと思っています。本市では教育ビジョン、中央図書館の開館、この4月から学校図書館の支援センターを試行的に設置するなど、子どもの読書環境を取り巻く環境も変化しております。これらを踏まえて、関係者の方々のご意見を反映した内実のある計画づくりをしていきたいと考えております。素案ができた段階で、また皆様にお諮りする場面もあろうかと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上でございます。

(齋藤議長)

子どもの読書活動という大事なところを、組織的にきちとやりたいという提案でございました。何か注文とかはございますか、よろしゅうございますか。ありがとうございます。それでは、今日、用意された議題は終わりですよ、もう1個あります。

(事務局)

資料3 - 2がございます。

(齋藤議長)

これは、笠原委員さんからお願いします。

(笠原委員)

今度は理事会の報告です。今度は、暑い暑い日に東京へ行ってまいりました。東京が最高気温をマークした日でした。新潟からの参加は、県の事務局の方と私の2人の参加でした。2人とも初参加でした。

議題は、平成20年度と平成21年度の関プロについての話でした。20年度については、もう要綱を送付してあるということで、会場、分科会についての報告だけで、それに対する質問も出ませんでした。

問題は、21年度の関プロ大会で、埼玉県が当番なのですが、会長さんから大変準備が難航しているという説明がありました。7月25日の時点で、まだ理事会が1回も開かれていないという異常な事態だという報告があり、関プロの分科会を独自で開催できない状況だということでした。それで、どうするのかという話でいろいろな案が出たのですが、結論は、その時にちょうど埼玉で生涯学習フェスティバルがあるそうで、その生涯学習フェスティバルと共催で行いたいということです。ということかと言いますと、11月2日を大会にして翌3日、これをフェスティバルの見学にあてて、分科会としたいということでした。

会場の案の他にいろいろあったのですが、交通の便が悪いとか、有料だとかといって問題になりませんので、多分これで決まると思います。同時に、この前の全国大会は10月28日に理事会、29、30日が大会で、これは決定だそうです。そんなに日にちが詰まっているのでは困るという意見があり、同時に、11月は行事が多いという意見があったのですが、この日程は動かせないということで、参加が少ないのはどうするかということで、事務局から、国立女性会館から共同で何かをやらないかという打診があるので、このあたりを検討したいという話がありました。ただ、全国生涯学習フェスティバルと同時開催とした場合に分科会参加が無料になるので、大会参加費が今までどおりのお金を徴収できないのではないかという心配が一つ。

初日の11月2日ですが、大会の会場が埼玉アリーナだそうです。非常に広い会場で大会を行って、まとまるのかどうかという危惧の声が上がりました。先ほど申し上げましたように、事務局がまだスムーズにスタートしておりませんので、そういう意見が出たという段階で終わりました。次は、3月に開催する予定だそうです。以上です。

(齋藤議長)

ありがとうございました。埼玉県は苦労しているようですね。

それでは、用意されたものは以上ですので、最初の会のスタートの時にお話しましたが、宿題の件についてです。お手元に資料があるかと思いますが、9月25日締切りで、訪問調査とか、おおよその生涯学習の現状、それから前の計画、第1回目の社会教育委員会で資料がお手元にいつているかと思いますが、それらを読まれて、一応現状があって、課題とか問題点がありますので、新潟市の生涯学習の課題、社会教育の課題、問題はどの辺じゃないかと、こういうのは計画に入れていったらいいのではないかと、率直なご意見、先ほど長谷川委員さんから、今までのメディアと違う新しい情報提供を加えたらとか、そういうものを各委員の立場で記載していただきたいと思います。こういう現状からすると、こういうのを計画に入れていたらどうかというご意見を出していただきたい。そうすると、次回の会議が少し能率的になるかなと思います。

お書きになったこと以外も、次回の会議でおっしゃっていただいてもかまいません。一応2回やった範囲で、ここは大事なのではないかと、そういうお気づきの点を出していただきたいというのが宿題の趣旨です。以上、よろしくお願いします。では、用意されたものは以上ですので、事務局へお返しします。

(司会)

第28期新潟市社会教育委員会議

長時間にわたりまして、ありがとうございました。今、齋藤議長がおっしゃったとおり、ご自分の立場ですとか、活動という足下的な視点から、また今回、皆さんに全市を見ていただきましたので、広い視点まで含めまして、気づいたことを25日までに私ども事務局までメール、ファックス、郵送、いずれでも結構ですでお送りください。書式がフロッピーに入っていますのでこちらでも結構です。送っていただいたものをまとめて次回の会議の資料とさせていただきたいと思います。次回は、9月29日の月曜日、午後2時から、いつもの白山浦庁舎の401会議室を予定しております。また改めてご案内をさせていただきます。本日はこの後、皆さんから情報交換をいただきますが、まずは長時間にわたりまして、ありがとうございました。